

「シドニー便り 2. 0」(第1回)

10月7日

9月23日に着任してから今日で二週間が経ちます。

到着翌日にカウラを訪問し、「さくらフェスティバル」への参加、さらにその翌日の追悼式参加と献花を行う栄誉に恵まれました。

この二週間、当地政府関係者、企業関係者、文化・芸術・学術・食や、人的交流分野で活躍する日本の方々などとの様々な出会いがありました。中身の濃い二週間はあっという間に過ぎました。

それぞれの出会いについては、次回以降に御紹介する機会があると思います。

皆さまには、これから「シドニー便り 2. 0」として、日々の出会いから感じたこと、記憶に留めたことを、総領事の私から随想風にお届けしてまいります。

「第1回」として、今回は、シドニー着任間もない私の個人的な「第一印象」を皆さまに共有したいと思います。作成の段階で、すでに、「まだまだ観察が足りていない」「見る目が甘い、浅い」といった指摘を周りから頂きました。そのことを承知の上でなお、シドニーの「第一印象」を率直に記したいと思います。そして、この「第一印象」への、皆さまの、これまた率直な御意見、御異論、コメントを、今後の出会いで提起して頂けるとありがたく存じます。

1 街がきれいだ

日本の街もきれいですが、シドニーも、ゴミがほとんど落ちておらず、きれいで、清潔で、快適な街。「ととのっている」という形容がぴったりきます。すれ違う人々も、華美とは言えないにせよ、「ととのった」風情で、ほっとするものを感じます。

2 溶け込みやすい街だ

オーストラリアが初めての私でも、街に溶け込むのに時間を要しません。日本から持ってきたそのままの自分を、そのままの形で適応させることのできる街。初心者にも優しい、寛容な土地柄という印象です。いろんなものが混じり合い、新しいものが必要なら育てていく、そうした心の余裕と、心の豊かさがにじみ出る街頭風景です。

3 親切、オープンで、活気ある街だ

道に迷ってグーグル・マップとにらめっこしていると、「迷ったかい？」としばしば声をかけられます。逆に、明らかに異邦人である私に、道を聞いてくる人もいます。誰とでも分け隔てなく接する、オープンで親切な街。そしてすれ違う人の顔が明るい、活気にあふれる街です。

4 食材に豊かで、食べ物がおいしい

Made in Australia の数多くの野菜・果物・肉類その他で、心も体も満たされます。健康に生きていく上で、これはとても重要なことです。

5 親日的だ

事前に聞いてきたとおり、いや、それ以上にそう感じます。日本とオーストラリアの関係も「上げ潮」モード。この現状に甘えることなく、日本と日本人の存在感と評価を高めていくことが、私自身にとっても重要なミッションだと感じます。

私にとって今回のシドニー勤務は、①初めての南半球勤務、②初めての日照時間の長い在外勤務、③初めての中小規模公館、④初めての（「政治的外交交渉」以外の）幅広い業務内容、④初めての館長、という「初めて」尽くしの体験です。

そのような「初心者」からの、二週間を経過しての、「第一印象」。
御批判、コメントを歓迎します。

「第2回」以降も、引き続き御笑覧くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



青い空に飛行機雲で描かれた♡と Marry me
バブル期の日本でも見たことがない。。。 (10月2日撮影)